

レイカ大津研修部 住友活機園見学会 2015. 6. 6

6月6日(土)13時15分に京阪石山寺駅に集合し、住友活機園見学会をレイカ大津研修部主催で55名が参加して行ないました。午前中降っていた雨も午後には止み、晴れ間も覗く絶好の見学日和となりました。昨秋の真っ赤な紅葉にも感動しましたが、初夏の新緑とツツジもまた格別の趣で四季を通じて伊庭貞剛翁が楽しんでおられた様子が偲ばれます。

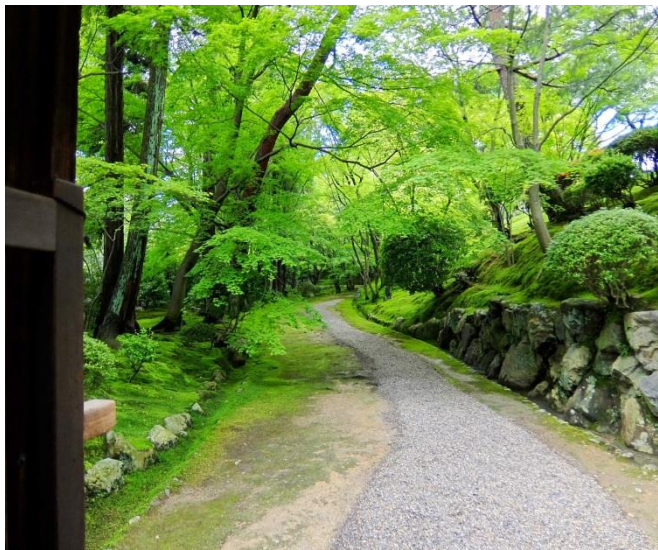
お世話になった住友グループの方々並びにレイカ研修部の方々有り難うございました。



13時15分に京阪石山寺駅に集合



歩いて10分足らずで玄関に到着



玄関に入ると眼にも鮮やかな紅葉の緑



左右に苔むした歩道を広場まで登る



ツツジも新緑に映えて一段と綺麗に咲いている



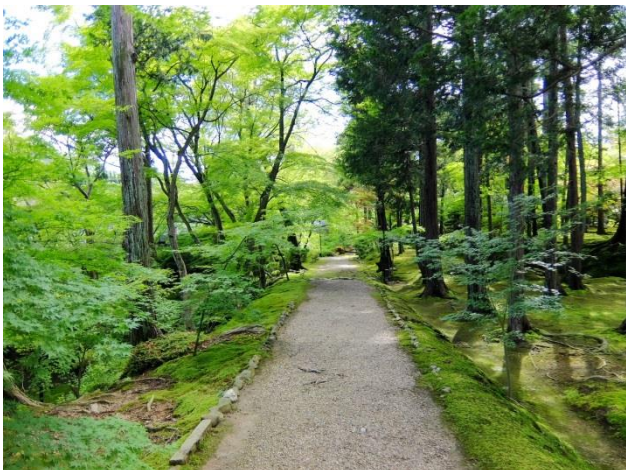
見学会に先立ち佐瀬支部長挨拶とお礼の言葉



洋館の佇まい



和館の庭園を望む。この庭は翁が自ら手がけたそうだ



帰りの歩道も景色を楽しみながら足取りも軽く



<<住友活機園について>>

住友林業株式会社が所有する「住友活機園」(伊庭貞剛記念館／滋賀県大津市田辺町 10 番 14 号)は、平成 14 年 5 月 23 日、文部科学大臣から重要文化財に指定されました。「住友活機園」は風光明媚な大津市石山寺に近く、瀬田川のほとり、琵琶湖を望む小高い丘の上にあります。明治 37 年、近代住友の基礎を築いた第二代総理事伊庭貞剛翁が自らの隠棲の居として建設し、翁の没後その子孫により旧住友本社に寄贈されたものを、戦前・戦後にわたって住友グループが維持管理をしてきた文化遺産です。平成 9 年からは貞剛翁を顕彰する記念館として整備し、グループ各社の社員が高潔な翁の精神を学ぶ場としても利用しています。

「活機」とは、翁自身が名づけたもので、禅宗の思想で「俗世を離れながらも人情の機微に通じる」という意味を持ち、翁が晩年を過ごした地の名称としてふさわしいともいえます。